

# ここが聞きたい

〈月曜掲載〉



大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構 作本 貞子理事

トラック、バス、タクシーの運輸業界で健康起因事故が増加している。この傾向には運転者の高齢化、事業競争の激化などあらゆる要因が複雑に絡み合っている。しかし事業者はこうした事態に確実に対処し、運転者の健康管理に留意しなければならない。その第一歩といえる健康診断の結果への対応が重要というNPO法人・大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構(OCHIS)の作本貞子理事に、前回に引き続き聞いた。

《運転者への健康管理のポイントを》  
各社が毎年実施している定期健康診断の結果

を、どう生かすかが重要になります。昨今では健康診断の結果、再検査や精密検査が必要と思われる有見率50%以上といわれます。しかし現実には、再検査、精密検査を健診機関に指導されても、都合や怠惰で怠って

## 健康起因の事故防止

があり、健康起因事故の発生可能性も同時に高まることを認識すべきでしょう。

《具体的な症状について》  
事故に関連した疾患で

## SASはもはや国民病

### 定期健診結果を生かそう

は心臓疾患、血管系疾患、脳血管系疾患、循環器系疾患が6割以上で、特に高血圧に留意が必要です。肥満、血糖値、脂質異常が加わり、複数の異常値を持ち合わせれば、急性心不全や虚血性心疾患による突然死のリスクが高まります。

特に関心があるのは、40代、50代は健康

る。息苦しく目が覚める。昼間に我慢できないほど眠くなるなどの症状もあります。

《SASはどんな病気ですか》  
山形のバス運転者の場合は、カゼ薬服用という複合的な要因も重なりました。良質な睡眠がとれず、集中力の欠如、昼間に強い眠気があり、そこに力ゼによる体調不良、薬(抗ヒスタミン剤)の

は、居眠り運転、突然死の誘発など危険度は極めて高いものです。

《SASはどんな病気ですか》  
山形のバス運転者の場合は、カゼ薬服用という複合的な要因も重なりました。良質な睡眠がとれず、集中力の欠如、昼間に強い眠気があり、そこに力ゼによる体調不良、薬(抗ヒスタミン剤)の

金制度があります。この検査で精密検査が必要と判定が出れば、専門医で終夜睡眠ポリグラフ検査を受けます。治療はシーパップという睡眠時の呼吸を補助する器具があります。その他では、OCHISが専門医の紹介も行っています。